

【資料の考古学的評価と被葬者像】

1. 鍛冶具での象嵌例は全国で初めての発見

象嵌は日本列島においては、朝鮮半島からの渡来系技術です。古墳時代には、ほとんどが大刀の装飾に用いられており、わずかに馬具にみられるだけです。工具の象嵌は新発見です。

2. 朝鮮半島との関係を示す新しい発見

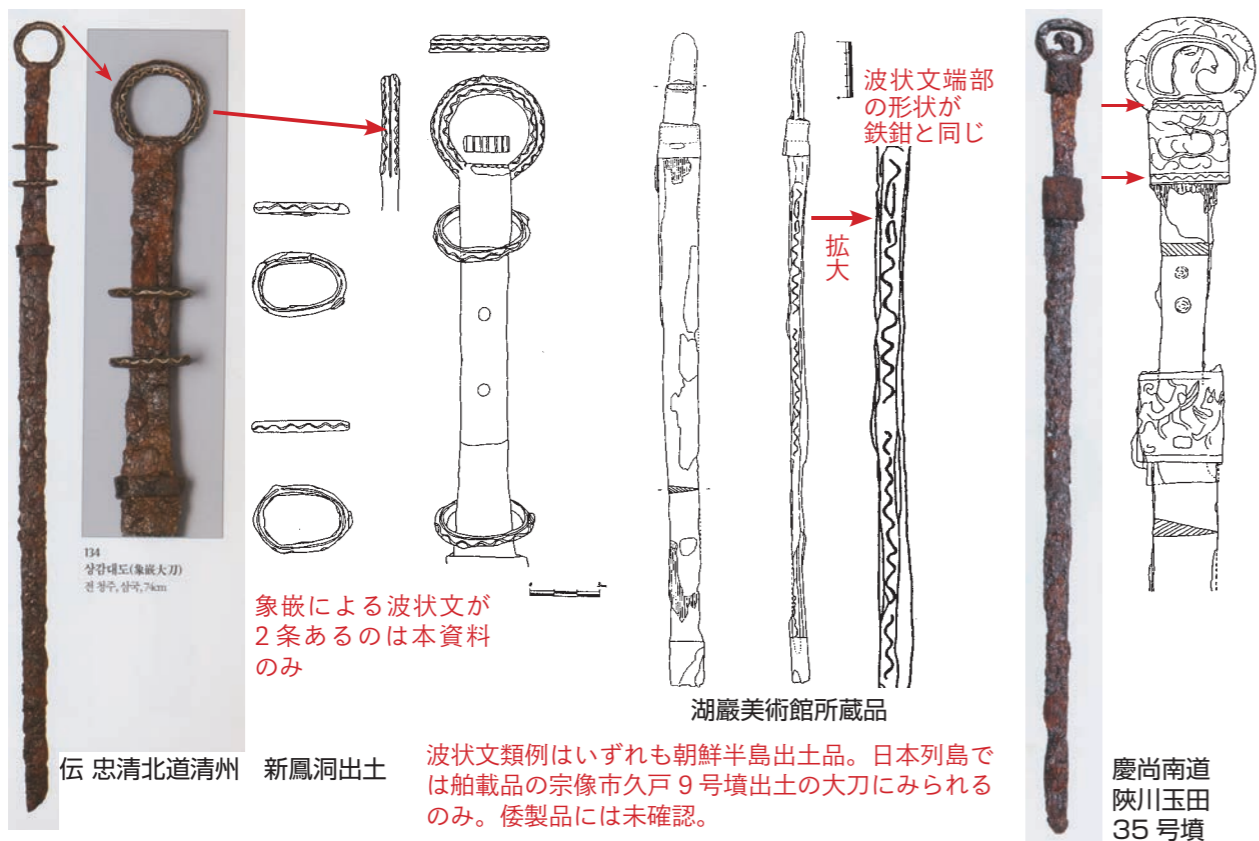
15cm 程度という小型の鉄鉗は、韓国での出土例が多く、日本での出土例の少ないものです。また、二条の波状文様も日本列島で初めての発見です。類例は韓国出土の大刀にあります。とくに百済・加耶西部地域の技術との関係が考えられます。

3. 鍛冶具は象嵌装飾から被葬者の性格を象徴する儀器的可能性

象嵌という特殊な装飾をもつ工具は金属器生産の統括者としての象徴品とみられる。また、高級織物の経錦（たてにしき）と綾（あや）が付着しており、重要器物であることがわかります。一括で同時に出土した小刀群は在地産の鉄器と考えられ、象嵌鍛冶具はその生産を掌ったことの象徴とみなされます。えびの市の古墳時代集落では鍛冶関連遺物が多く出土していますので、島内 139 号地下式横穴墓の被葬者は在地の鍛冶集団を統括していたことが想定されます。

4. 他の銀装円頭大刀等の出土品からも朝鮮半島勢力との関係が強く読み取れ、被葬者はヤマト政権と深く関わりながらも、直接的な対外交渉を行ったと考えられます。

今回発見された象嵌鍛冶具は、九州南部・近畿中央・朝鮮半島を結ぶ広域ネットワークを象徴し、軍事・対外交渉・生産業の統括といった多面的な活動にかかわった首長層の性格を表す重要資料といえるでしょう。



図出典 西山要一・山口誠治・李午憲 1996『日韓古代象嵌遺物の基礎的研究(一)』『靑丘学術論集』第9集 (財)韓国文化研究振興財団

問い合わせ： えびの市教育委員会 社会教育課 889-4311 えびの市大字大明司 2146-2 0984-35-2268

編集・文責： 鹿児島大学総合研究博物館 橋本達也

しまうち ちかしきよこあなぼ
えびの市 島内 139 号地下式横穴墓
ぞうがん かじぐ
象嵌鍛冶具の新発見

【新発見の象嵌鍛冶具】

2014 年度に大量の副葬品が出土した島内 139 号地下式横穴墓で、象嵌による装飾を施した鍛冶具が 2016 年になって新たに見つかりました。日本列島でも、朝鮮半島でも出土したことのない新発見の資料です。鍛冶具とは鉄を中心とする金属器の生産に用いる道具です。また、年代は古墳時代後期前葉・6 世紀前葉に位置づけられますが、象嵌装飾はこの時代の最先端技術です。

【発見の経緯】

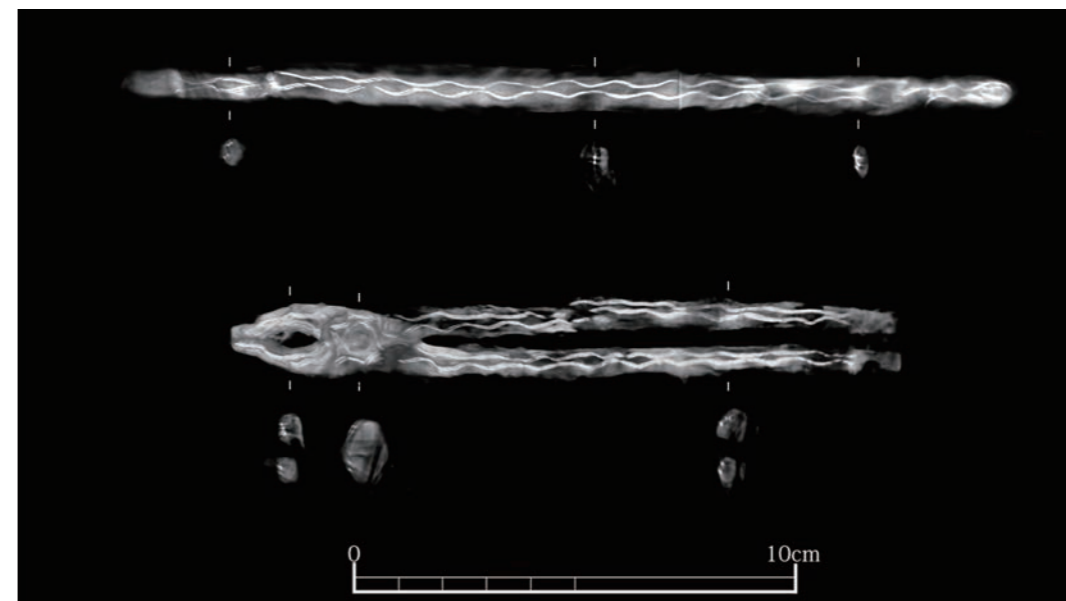
- ・小刀群として 2014 年 11 月に遺物を取り上げ。(協力：九州歴史資料館・九州国立博物館・宮崎県教育委員会・宮崎県埋蔵文化財センター)。小刀群は刀子・小刀など 13 点の集積。
- ・2015 年 2 月 小刀群の X 線 CT 調査 (九州歴史資料館)。
- ・2016 年 5 月 25 日 保存修理のため (公財) 元興寺文化財研究所に搬入。
- ・2016 年 6 月 10 日 修理のための X 線撮影で象嵌の発見、関係者に連絡。X 線 CT 画像を鹿児島大学総合研究博物館で解析、象嵌鍛冶具と確認。
- ・対象遺物を小刀群から取り出し、脱落していた象嵌破片の蛍光 X 線分析を行い銀を確認。

【新発見資料の情報】

象嵌鍛冶具 2 点

1. 鉄鉗かなはし：全長約 15cm、最大幅 1.7cm。にぎり部・はさみ部ともに 2 条の波状文、ジョイント部に日輪文がある。
 2. 鑿のみ状工具 (キサゲ・ヘラ工具か)：全長約 20cm、幅 9mm、厚 5mm。2 条の波状文をもつ。
- 象嵌線材質：銀製とみられる (破片の蛍光 X 線分析により確認、今後の修理で確定予定)。
象嵌技法：1・2 ともに振り線象嵌技法。

(現在の知見は X 線 CT 画像からの知見が中心であるため、今後の調査の進展で修正の可能性があります)



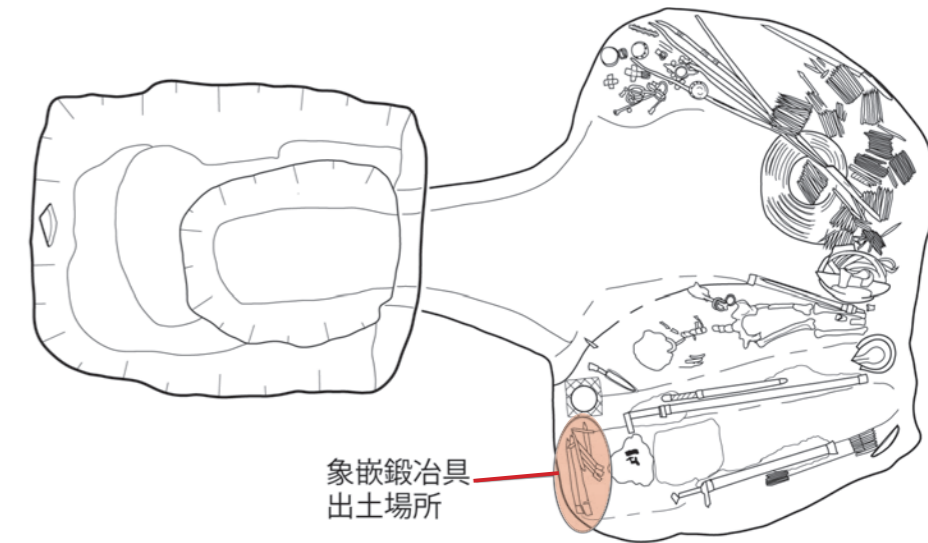
島内 139 号地下式横穴墓 出土鍛冶具の X 線 CT 画像
下：鉄鉗 上：鑿状工具 (CT 画像では折れ曲がりを修正)
CT 撮影：九州歴史資料館 CT 解析：鹿児島大学総合研究博物館



玄室パノラマ合成写真



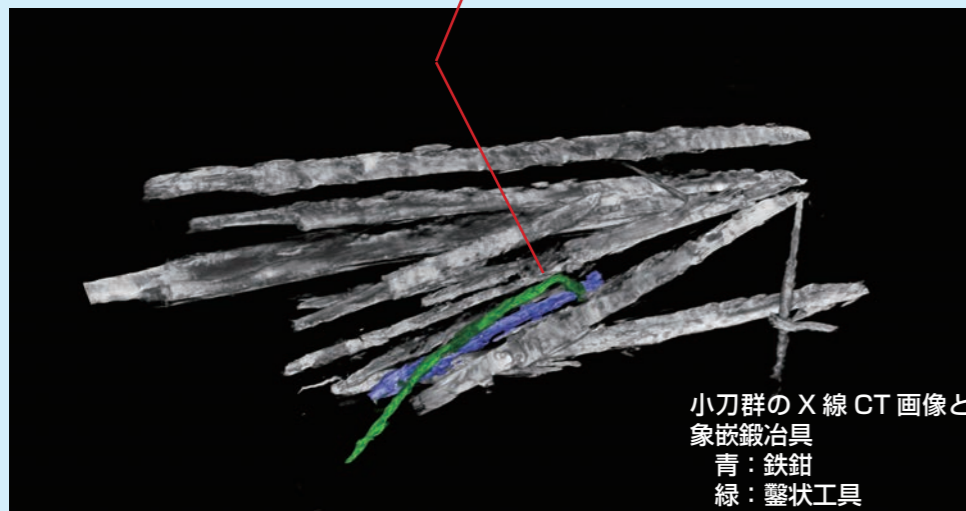
玄室内向かって右側写真



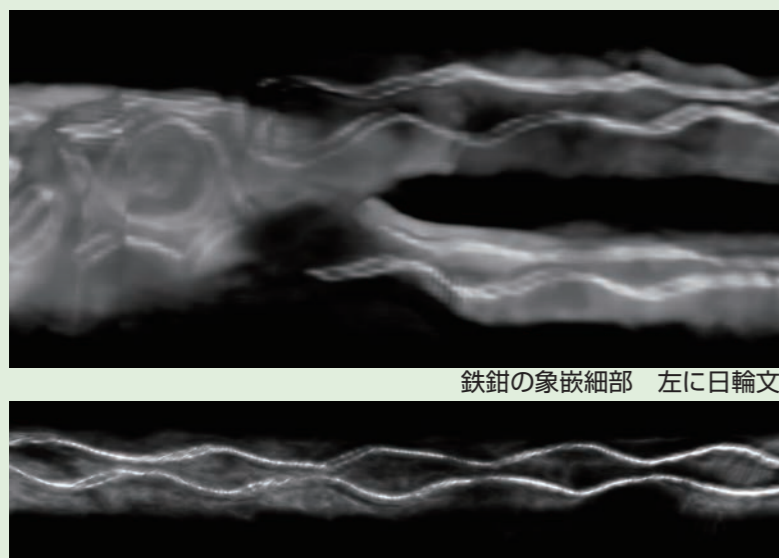
象嵌鍛冶具（小刀群）出土位置



小刀群出土状況と象嵌鍛冶具の位置写真



小刀群のX線CT画像と象嵌鍛冶具
青：鉄鉗
緑：鑿状工具



鉄鉗の象嵌細部 左に日輪文

CT撮影時のブレはあるが象嵌線はラセン状であることが観察できる。

鑿状工具細部X線CT画像

CT撮影：九州歴史資料館 CT解析：鹿児島大学総合研究博物館

小刀群象嵌鍛冶具



小刀群から取り外した鍛冶具写真
折り曲げられている。鉄鉗には経錦・綾が付着。
(写真撮影：(公財)元興寺文化財研究所)

X線CT画像をもとに復元した鍛冶具模式図
曲がり、ゆがみを補正した図

No.	古墳名	所在地	遺物・主体部	鍛冶具
1	大日山1号墳	熊本県上益城郡高瀬町	円筒・鉄製	鉄鉗1
2	箱谷古墳群3号墳	福岡県糟屋郡三好町	円筒・鉄製	鉄鉗1
3	新原・奴山1号墳	福岡県糟屋郡新原町	円筒・鉄製	鉄鉗1
4	五条猫塚古墳	福岡県糟屋郡五条町	円筒・鉄製	鉄鉗1
5	池の上6号墳	福岡県糟屋郡池上町	円筒・鉄製	鉄鉗1
6	イノラク1号墳	福岡県糟屋郡池上町	円筒・鉄製	鉄鉗1
7	花立山2号横穴墓	福岡県糟屋郡花立町	円筒・鉄製	鉄鉗1
8	大之越古墳	福岡県糟屋郡大之越町	円筒・鉄製	鉄鉗1
9	埼玉稲荷山古墳	福岡県糟屋郡稲荷山町	円筒・鉄製	鉄鉗1
10	寺口忍海H16号墳	福岡県糟屋郡寺口町	円筒・鉄製	鉄鉗1
11	郷土塚4号墳	福岡県糟屋郡郷土塚町	円筒・鉄製	鉄鉗1
12	雁多尾畑9支群4号墳	福岡県糟屋郡雁多尾畑町	円筒・鉄製	鉄鉗1
13	随庵古墳	福岡県糟屋郡随庵町	円筒・鉄製	鉄鉗1
14	五条猫塚古墳	福岡県糟屋郡五条町	円筒・鉄製	鉄鉗1
15	広石南古墳群A4号墳	福岡県糟屋郡広石町	円筒・鉄製	鉄鉗1
16	平等寺原5号墳	福岡県糟屋郡平等寺原町	円筒・鉄製	鉄鉗1
17	長畝山2号墳	福岡県糟屋郡長畝山町	円筒・鉄製	鉄鉗1
18	西吉田北1号墳	福岡県糟屋郡西吉田町	円筒・鉄製	鉄鉗1
19	境谷4号墳	福岡県糟屋郡境谷町	円筒・鉄製	鉄鉗1
20	塚原古墳	福岡県糟屋郡塚原町	円筒・鉄製	鉄鉗1
21	クエゾノ5号墳	福岡県糟屋郡クエゾノ町	円筒・鉄製	鉄鉗1
22	一本松古墳	福岡県糟屋郡一本松町	円筒・鉄製	鉄鉗1
23	ホリノヲ2号墳	福岡県糟屋郡ホリノヲ町	円筒・鉄製	鉄鉗1
24	ハウジ1号墳	福岡県糟屋郡ハウジ町	円筒・鉄製	鉄鉗1
25	カンス塚古墳	福岡県糟屋郡カンス塚町	円筒・鉄製	鉄鉗1
26	カクチガ浦遺跡3号墳	福岡県糟屋郡カクチガ浦町	円筒・鉄製	鉄鉗1
27	丸山3号墳	福岡県糟屋郡丸山町	円筒・鉄製	鉄鉗1
28	朝町山ノ口5号墳	福岡県糟屋郡朝町山町	円筒・鉄製	鉄鉗1
29	石ヶ元12号墳	福岡県糟屋郡石ヶ元町	円筒・鉄製	鉄鉗1
30	タンダ山古墳	福岡県糟屋郡タンダ山町	円筒・鉄製	鉄鉗1

従来の分布図で九州南部は空白。初出土



図1 日本列島鍛冶具副葬古墳の分布

図1 出典：村上恭通 2004「古墳時代における鍛冶具副葬古墳と被葬者—中期を中心として—」『考古論集—河瀬利正先生退官記念論文集—』広島大学大学院文学研究科文化財学研究室

小型鉄鉗を出土した大之越古墳、埼玉稲荷山古墳は舶載品を共伴する外来文化と関りの深い古墳

象嵌鉄刀出土(舶載品)
銘文鉄剣・中国南朝鏡・帯金具など出土

島内139号と同様の小型鉄鉗は日本列島で少なく、朝鮮半島に多い。

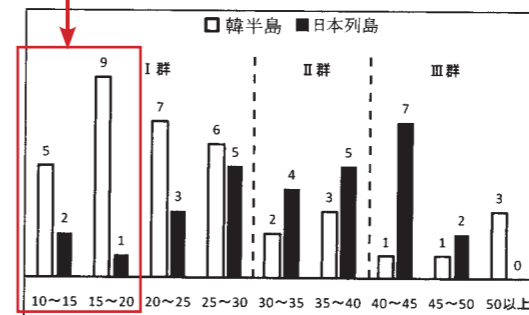


図2 日韓出土鉄鉗の全長比較

図2・表1 出典：濱崎範子 2008「韓半島出土の鉄製鍛冶具について—日韓出土資料の比較から—」『朝鮮古代研究』第9号 朝鮮古代研究会

今回の成果は、えびの市教育委員会・鹿児島大学総合研究博物館・(公財)元興寺文化財研究所の三者によるものです。

島内139号地下式横穴墓出土品は、まだ数年掛けて科学分析・保存処理を継続して行きます。今後とも、さらなる新発見も期待されます。公開・活用までは長期間の年月が必要になりますが、新しい情報は発信して行きますので、引き続きみなさまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

表1 日本列島出土の鉄鉗

※網掛け部分は欠損があるが、欠損が全体の2割以下と推定できたもの

遺跡名	全長 (cm)	全長分類	形態分類
大日山70号墳	27.7	I	A1
箱谷古墳群3号墳	11.9	I	B1
埼玉稲荷山古墳	13.6	I	B1
新原・奴山1号墳	22.9	I	B1
五条猫塚古墳	26.2	I	B1
池の上6号墳	29.4	I	B1
イノラク1号墳	29.8	I	B1
花立山2号横穴墓	13.8	I	B2
大之越古墳	15.5	I	B2
埼玉稲荷山古墳	17.0	I	B2
寺口忍海H16号墳	22.7	I	C
郷土塚4号墳	29.1	I	C
雁多尾畑9支群4号墳	29.6	I	C
随庵古墳	30.0	II	B1
五条猫塚古墳	31.7	II	B1
広石南古墳群A4号墳	33.5	II	B1
平等寺原5号墳	35.0	II	B1
長畝山2号墳	36.0	II	B1
西吉田北1号墳	38.5	II	B1
境谷4号墳	44.9	II	B1
塚原古墳	45.8	II	B1
クエゾノ5号墳	41.4	II	B2
一本松古墳	41.7	II	B2
ホリノヲ2号墳	42.8	II	B2
ハウジ1号墳	31.2	II	C
カンス塚古墳	36.0	II	C
カクチガ浦遺跡3号墳	41.7	II	C
丸山3号墳	43.5	II	C
朝町山ノ口5号墳	47.2	II	C
石ヶ元12号墳	37.0	II	D
タンダ山古墳	40.1	II	D?